

第 7 次保健医療計画進捗状況について（糖尿病）

1 取組状況及び今後の展開

小項目	取組内容（医療計画記載事項）	取組結果	今後の方向性
（１）予防	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 啓発イベントや各種研修会の開催を通じて、県民に対し、糖尿病の発症予防に関する知識の普及・啓発を図ります。</li><li>○ 特に働き盛りの世代を対象に、企業等と連携して糖尿病の発症予防に関する知識の普及・啓発を図ります。</li><li>○ 健診、保健指導実施率を向上させ、糖尿病の発症と重症化を予防するために、保健指導者育成の研修など、保険者に対する支援を行います。</li><li>○ 健康増進計画に沿った施策や介護予防事業を推進し、関係団体、市町村と連携した健康づくりを行います。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ イベント会場や大型商業施設等において、ふくおか健康づくり県民運動情報発信サイト等を活用した、糖尿病を含む生活習慣病の発症予防に関する知識の普及・啓発を行った。（平成 30 年度：42 回 4,225 人、令和元年度：56 回 5,979 人）</li><li>○ 市町村等の保健指導従事者を対象に、重症化予防の意義及び病状を踏まえた保健指導に関する知識や技術向上のための研修会を開催した。（参加者数（延べ）：平成 30 年度：342 人、令和元年度：334 人）</li><li>○ 市町村と医療機関が連携し、市町村が主治医からの指示を受け、治療継続、食事や運動等の生活習慣の改善のための保健指導などの生活習慣病重症化予防事業を実施した。（実施市町村数：平成 30 年度：60 市町村、令和元年度：60 市町村）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 保健指導従事者のための研修を行うなど、健診、保健指導実施率の向上に向けた保険者への支援を行う。</li><li>○ 福岡県糖尿病対策推進会議等において、予防対策について協議するとともに、各保険者と関係機関との連携による「福岡県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を活用した取組みを推進する。</li></ul>
（２）初期診療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 健診において治療が必要とされた患者に対し受診勧奨を行い、適切な診断、治療および保健指導ができるよう関係機関による連携を図り、健診後の初期診療体制を充実します。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 健診において医療が必要となった患者に対し受診勧奨を行い、適切な診断、治療および保健指導ができるよう、連携会議や事例検討会等を開催した。（平成 30 年度：30 回、令和元年度：42 回）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 受診勧奨・保健指導により、重症化予防が進むよう、福岡県糖尿病性腎症重症化予防プログラムを参考にした体制づくりを行う。</li></ul>
（３）かかりつけ医と専門医、合併症治療医との連携促進	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 初期や安定期に継続して治療を行うかかりつけ医等の医療機関において、血糖コントロールがうまくいかず、インスリン注射の導入や教育入院が必要になった場合には、専門的な教育治療を行う糖尿病認定教育施設等の医療機関との連携や糖尿病網膜症や糖尿病性腎症等合併症の検査治療等を行う医療機関との連携を促進します。</li><li>○ 現状の提供体制の維持・確保を図りつつ、二次保健医療圏ごとに設置された地域医療構想調整会議における医療関係者等の意見や協議を踏まえ、病床の機能・分化連携を推進します。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「福岡県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を参考に、かかりつけ医と専門医の連携に向けた調整を行うための連携会議や事例検討等を開催した。（平成 30 年度：30 回、令和元年度：42 回）</li><li>○ 県内 13 区域に設置された「地域医療構想調整会議」を開催し、医療関係者等により地域の実情の応じた病床の機能分化・連携の検討を行っている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 重症化予防の取組みとして、かかりつけ医と専門医の連携体制構築に向け、医師会等関係団体と協議を進める。</li><li>○ 引き続き、地域医療構想調整会議において、地域の実情に応じた病床の機能分化・連携を推進していく。</li></ul>
（４）医療機能情報の提供	<ul style="list-style-type: none"><li>○ ホームページ等により、糖尿病の診療に係る医療機関情報を提供します。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 医療情報ネットにより、各医療機関の医療機能情報を提供している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 引き続き、医療情報ネットにより、各医療機関の医療機能情報の提供を行う。</li></ul>
（５）重症化予防	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 平成29（2017）年度に策定した「福岡県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」に基づき、糖尿病が重症化するリスクの高い医療機関の未受診者・治療中断者に対する医療機関からの受診勧奨や保健指導によって治療に結びつけるとともに、糖尿病性腎症等で通院する患者のうち重症化するリスクの高い人を、主治医の判断により保健指導対象者に選定し、専門医療機関との連携を図るなど、適正な医療を提供することで腎不全・人工透析への移行の防止に努めます。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「福岡県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」に基づき、各保険者が糖尿病性腎症の重症化予防の取組みを効果的に行えるよう、医師会や関係団体と連携体制を構築し、課題や対応策等について議論を行った。（福岡県糖尿病対策推進会議開催回数 平成 30 年度：3 回、令和元年度：2 回）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 福岡県糖尿病性腎症重症化予防対策協議会を設置し、プログラムの改定及びその推進について協議を行うことで、糖尿病性腎症重症化予防の取組みの強化を図る。</li></ul>

2 数値目標の達成状況

目標項目	現状（H27）	H30	R1	R2	R3	R4	R5	推移	目標値（R5）
糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数	736	727	※						670 人以下
メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率	13.0	※	※						25%以上
特定健康診査実施率（％）（４０－７４歳）	45.3	※	※						70%以上
特定保健指導実施率（％）（４０－７４歳）	19.7	※	※						45%以上
指標の調査名	患者数：（社）日本透析医学会のデータ、メタボリックシンドローム該当者：厚生労働省保険局データ								
取組状況（目標値達成のために実施している施策(事業)等）	生活習慣病対策事業 特定保健指導人材確保・育成事業、生活習慣病対策強化事業								
今後の取り組み方針（今後の方向性等）	「福岡県糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を参考に、保険者が糖尿病性腎症重症化予防の取組みを効果的に行うことができるよう、関係団体等との連携を図る。								

推移：（改善）上斜矢印 （横這い）横矢印 （悪化）下斜矢印 ※「糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数」、「メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率」、「特定健康診査実施率」及び「特定保健指導実施率」については、R3 年 3 月頃に国から公表予定のため、記載できない。

3 進捗評価

達成状況	進捗総合評価（A～E）	理由
	C	目標達成に向けて、引き続き施策を実施する。

A：達成 B：順調に進捗（数値の変化が見られない場合であっても施策の実施状況等から順調と判断できるものを含む） C：引き続き施策を実施 D：未着手等策(事業) E：その他